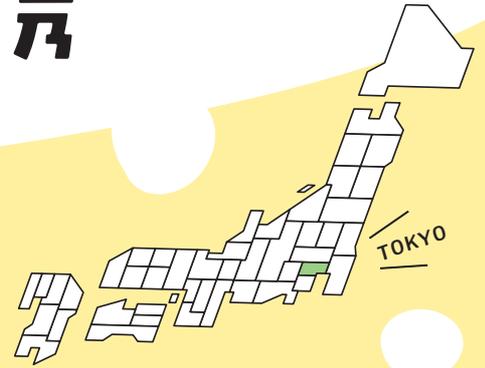


第6回

# 公害資料館連携 フォーラム in 東京



2018年  
12月

14  
〈金〉

16  
〈日〉

場  
所

法政大学  
多摩キャンパス 他

【京王線】めじろ台駅下車、バスで約10分「法政大学」下車  
【JR線】西八王子駅下車、バスで約22分 または、相原駅下車、  
バスで約13分「法政大学」下車

## 基調講演

### 市民の力でSDGsを活用する ～ハードコア編

#### profile

現職ほかに(一財)CSOネットワーク代表理事、  
(特活)日本NPOセンター副代表理事。  
米国(6年半)、南アフリカ(5年半)含め、国内外で  
NPOマネジメント歴24年。2008-13年、市民社会  
の強化を推進するCSOのグローバルな連合体  
であるCIVICUS(南アフリカ)にて事務局次長。こ  
の間、SDGs(持続可能な開発目標)策定過程に市  
民社会の声を反映させる各種提言活動に関わった。



いまは かつじ  
今田 克司さん  
(一社)SDGs市民社会  
ネットワーク業務執行理事

参  
加  
費

フィールドワーク:4,000円(先着受付・定員30名)  
フォーラム:会員4,000円/非会員5,000円/学生1,000円

ス  
ケ  
ジ  
ュ  
ー  
ル

12月14日(金)

フィールドワーク 東京の大気汚染公害の現場を回る  
13:00-17:00 ~立教大学共生社会研究センターの見学

12月15日(土)

13:00-15:00 フォーラム 基調講演  
15:15-17:45 フォーラム 分科会  
18:15-20:00 交流会

12月16日(日)

9:30-12:00 フォーラム 分科会  
13:00-15:00 フォーラム 全体会

## 第6回公害資料館連携フォーラムin東京実行委員会 (順不同)

- ・東京公害患者と家族の会 ・川崎公害患者と家族の会 ・地球環境パートナーシッププラザ ・立教大学共生社会研究センター
- ・新潟県立環境と人間のふれあい館-新潟水俣病資料館- ・(一社)あがのがわ環境学会 ・(一財)神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会 ・富山県立イタイイタイ病資料館
- ・四日市公害と環境未来館 ・(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)付属西淀川・公害と環境資料館 ・尼崎南部再生研究室(あまけん) ・(公財)水島地域環境再生財団
- ・全国公害被害者総行動実行委員会 ・法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ ・国立水俣病総合研究センター ・株式会社ミナコレ ・水俣市立水俣病資料館
- ・(一財)水俣病センター相思社 ・公害資料館ネットワーク (2018年9月5日現在)

主催:第6回公害資料館連携フォーラムin東京実行委員会 共催:(一社)日本環境教育学会、(公社)日本環境教育フォーラム

後援:環境省、ESD活動支援センター、関東地方ESD活動支援センター、全日本博物館学会、日本展示学会、日本アーカイブズ学会、認定NPO法人開発教育協会、(公財)東京都人権啓発センター、認定NPO法人水俣フォーラム  
協力:関東EPO

2018年度地球環境基金助成事業

12/14  
(金)

フィールドワーク  
東京の大気汚染公害の現場を回る

大和町交差点(大気汚染激甚交差点)→自転車道改善の現場→被害者のお話→  
立教大学共生社会研究センター(千葉川鉄公害裁判、東京大気汚染公害裁判資料)

【東京大気汚染公害裁判について】

1960年ごろから、東京は自動車の排気ガスによる大気汚染に悩まされていきます。ディーゼル車は、ガソリン車からはほとんど排出されない浮遊粒子状物質を大量に排出し、酸化窒素もガソリン車の十数倍排出します。自動車排ガス汚染により、ぜん息などの呼吸器系の病気になる人が増えていきました。東京大気汚染公害裁判は1996年~2007年に行われました。裁判和解後も原告と被告は話し合いを続けて、公害地域再生に取り組んでいます。

日付	分科会・タイトル	担当委員	ゲスト	紹介文
12/15 (土)	15-1 [資料] 展示キャプションの作成を通して資料整理の方法を学ぶ	清水善仁(法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ)、平野泉(立教大学共生社会研究センター)、小田康徳(西淀川・公害と環境資料館)、蜂谷紀之(国立水俣病総合研究センター)		資料をじっくり分析して、展示キャプションを書いてみるというワークショップを行います。展示キャプションの作成と資料整理のプロセスには実は共通する点があります。資料の読み方や目録の作り方等、グループワークを通して理解を深めます。
	15-2 [地域づくり] 公害地域再生のまちづくり戦略:患者会と自治体の効果的な連携を目指して	川中大輔(龍谷大学) 原田利恵(国立水俣病総合研究センター) 尾崎寛直(東京経済大学)	大越稔秋(東京公害患者と家族の会)、大場泉太郎(川崎公害患者と家族の会)	東京と川崎にある「公害患者と家族の会」は、被害補償を求めて運動を展開していく一方、公害を起こさない地域づくりに取り組んできました。本分科会では、二つの会の実践を報告していただき、自治体へのアプローチの仕方、パートナーシップの築き方、計画や施策への提言の方法などについて共有し、具体的な議論を行います。
	15-3 [展示] 巡回20年の水俣展に学ぶ	林浩二(千葉県立中央博物館)	実川悠太(認定NPO法人 水俣フォーラム)	水俣フォーラムは、1996年の水俣・東京展をもとに翌年設立されました。これまで全国で25回開催してきた水俣展は何をめざしてどのように作り、何を伝えてきたのかがあります。それを元に公害資料館の存在理由と展示の意義を考えます。
	15-4 [教育1] 「公害資料館」の教育力を考える	高田研(都留文科大学) 安藤聡彦(埼玉大学)	吉永利夫(㈱ミナコレ)	時代が流れ世代も替わる中で、公害資料館の社会的装置としての意味は変わってきています。その変化にどう対応するか。これまで水俣病を伝える活動に取り組んできた吉永さんの問題提起を踏まえ、皆さんと共に考えたいと思います。

12/16 (日)	16-1 [公害入門] 公害と環境、アジアへの広がり	尾崎寛直(東京経済大学)	寺西俊一(一橋大学名誉教授・特任教授)	日本では1960年代から、公害環境問題を学際的に分析し、政策提言を行う研究者のグループが生まれ、活動が積み重ねられてきました。そして90年代以降は公害地域の「環境再生」に取り組むとともに、その経験を活かし、深刻な公害が頻発するアジアへと活動のネットワークを広げています。このような取り組みの意義をお話していただけます。
	16-2 [企業] SDGsの視点で、イタイタイ病の経験から学ぶ	五十嵐実(日本自然環境専門学校・あがのがわ環境学舎)、藤原園子(みずしま財団)、清水万由子(龍谷大学)、高木勲寛(神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会)	渋江隆雄(元三井金属鉱業(株)執行役員・北海道大学新渡戸カレッジフェロー)	イタイタイ病の原因企業、三井金属の子会社である神岡鉱業の元社長の渋江隆雄さんに、被害者との信頼関係構築について、当時どのように考え行動されたか、お話しいただけます。公害経験からの学びが、企業のSDGs(持続可能な開発目標)達成にどのようにつながるのかを考えます。
	16-3 [教育2] 私たちはなぜ「公害に抗する教育」に取り組んだか? ; 未来に向けて過去を語り合う	安藤聡彦(埼玉大学) 高田研(都留文科大学)	藤岡貞彦(一橋大学名誉教授) 福島達夫(元和光大学教授)	半世紀あまり前、公害問題が激発した時代に、公害に抗する教育運動が展開されました。その中心におられたおふたりにおいでいただき、語り合っていたくなくて、これからの公害教育に向けて継承すべきものを考え合っていきたいと思っています。

申し込み先: 第6回公害資料館連携フォーラム in 東京 実行委員会事務局/公害資料館ネットワーク事務局

公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)担当:林、栗本

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階 TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885

(申し込みメールアドレス) kougaishiryoukan+forum@gmail.com

学生ボランティア募集中!  
お問い合わせください

申し込み  
QRコード



氏名	(ふりがな)	TEL	
所属		FAX	
住所	〒	メールアドレス	
フォーラム参加ご希望の分科会名と番号 (人数調整あり)	15日 第1希望	第2希望	14日フィールドワーク参加申込 4,000円(先着受付)
	16日 第1希望	第2希望	交流会 4,000円
			申込する 申込しない
			申込する 申込しない